

皆さん、明けましておめでとうございます。今年も生徒も先生も力を合わせて、蘇南高校を盛り上げていきましょう。

さて、皆さんは「1年の計は元旦にあり」という言葉をご存知ですか。年が変わるときに、前の年を省みて今年をどんな年にするかを考えることに大きな意味があるというものです。そのような言葉を知らなくても、「今年は…」とか、「今年こそは…」と思った人が多いと思いますが、「今年は…」「今年こそは…」に続く自分の気持ちを1年間忘れないように過ごしてみてください。

この冬休みの間に、私は2年生の修学旅行記を読ませてもらいました。旅行に旅立つ直前、私は皆さんに「なぜ沖縄なのか」を考えつつ旅行に行ってきたほしいと伝えました。その答えがきちんと書かれているか、じっくりと読ませてもらいました。全員の旅行記を紹介できればいいのですが、時間の都合上、数名の人の文章をこの講話で読ませてもらいます。

「私は修学旅行前にひめゆり学徒隊についてのビデオを見せてもらい、それがどんなものかを知っている気で行きました。しかし、ビデオではわからないことがたくさんありました。」

「私たちと同じ年齢の多くの子どもが亡くなり、たくさんの悲劇を生んだ戦争を繰り返すことのないよう、私自身が学んだこと、実際に見て感じたことを次の世代へ繋げていくことで平和が実現します。」

「戦争を体験した人たちが亡くなると、戦争について語り継がれなくなり、しだいに戦争の恐ろしさも消えてしまいます。そんなことにならないように、今、しっかりと私たちが聞いて見て語り継いでいかなければならないと思いました。」

「沖縄にはたくさんの米軍基地がありました。しかも普通の民家や住宅地ととても近いところにありました。(中略)長野には基地がありませんが、自分には関係ないことと思わず、沖縄のために何ができるかを考えて行動していきたいと思いました。」

4人の旅行記の一部分のみ抜粋しました。この4名の文章だけでも、私が旅行前に皆さんに出した宿題を十分に果たしてもらったかなと感じられます。なぜ沖縄なのか、その答えを忘れないようにしつつ、今後、わが国だけでなく世界全体の政治・経済・社会の動きにも注意を払っていくようにしてください。スウェーデンのグレタさんのような行動を取ることはなかなか難しいかもしれませんが、世界の動きに疑問を持ったり、より良い社会はどうすれば構築できるか考えたり、それをもとに友人と小さな行動からスタートさせることは皆さんにもできることだと思います。修学旅行をきっかけに、いろいろなことに興味関心を持ってほしいと期待しています。

来年度から沖縄でなく、修学旅行の行き先は長崎になります。いろいろな制約から沖縄ではなくなりましたが、1年生諸君には「なぜ長崎なのか？」という問いに対して答えが出せるようにしっかりと準備をしていってほしいとお願いをしておきます。

令和2年1月8日

蘇南高校長 小幡 正樹